

安城市における水田貯留事業の取組

～「あめの恵みを活かす安城」を目指して～



安城市マスコットキャラクター
「サルビー」



ともに育み、未来をつくる しあわせ共創都市 **安城**

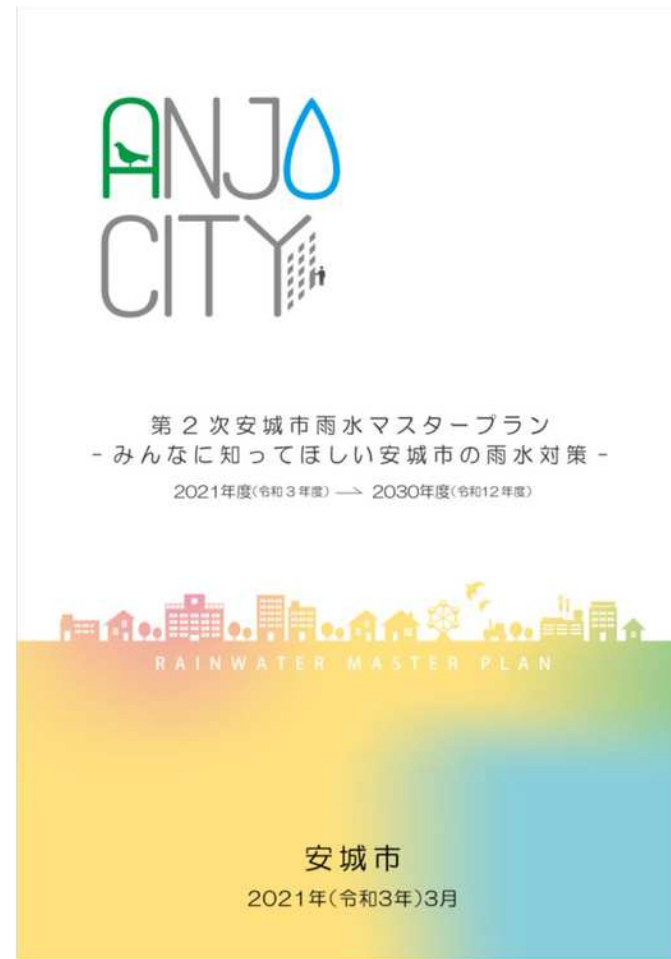
水田貯留事業のきっかけ

本市では、平成12年の東海豪雨を契機として調整池の整備に力を注いできましたが、平成20年8月末豪雨でも浸水被害が発生し、**行政による雨水対策の限界を痛感**しました。また、都市化の進展に伴い多くの農地が開発され、雨水が一気に流出するようになったことが水害のリスクを高める要因になっていることも指摘されていました。

▼近年の代表的な浸水被害

時期・豪雨名称	総雨量 (mm)	時間最大雨量 (mm/hr)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)
平成12年 東海豪雨	342	57	42	159
平成20年8月末豪雨	226	77	15	72

平成22年度に**安城市雨水マスタープランを策定**し、理念として**「あめの恵みを活かす安城」**を掲げ、**「市民、事業者及び行政が協働して、あまみずを水資源として捉え、さらに防災の視点を取り入れた雨水対策を推進する。」**という基本方針に沿った各種施策として、農地などの雨水が浸み込む土地の保全や水田貯留の推進を掲げました。



▲安城市雨水マスタープランの表紙



これまでの取組状況

候補地の選定

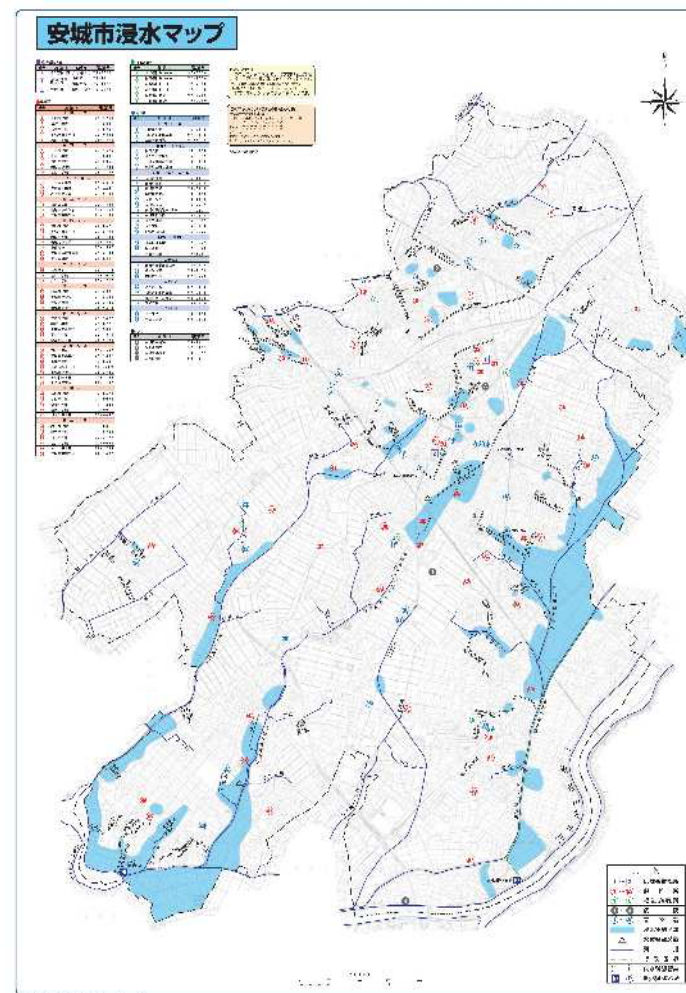
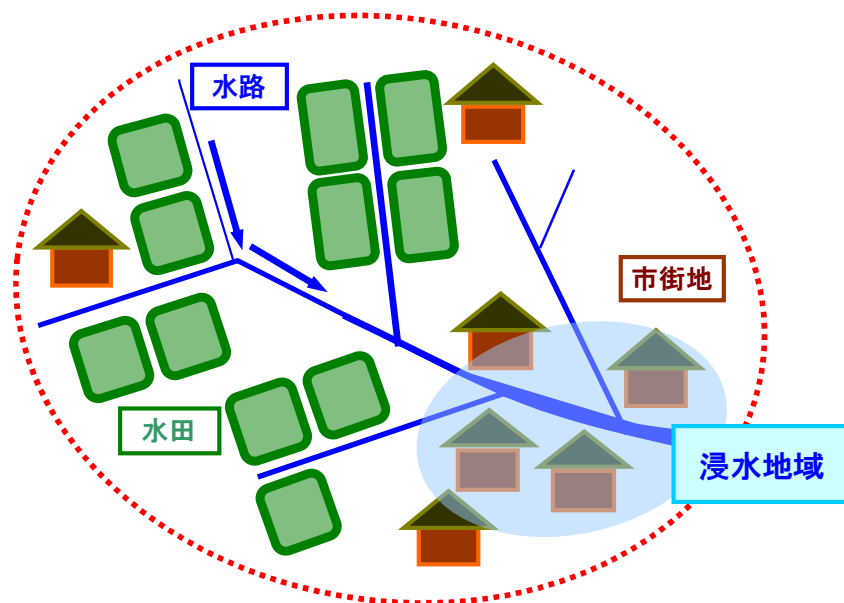
調査・設計

関係者の同意

施工

施設の運用

東海豪雨などによる市内の浸水実績区域を表した「安城市浸水マップ」を確認し、過去に浸水被害のあった市街地の上流における農地を水田貯留の候補地として選定します。



ともに育み、未来をつくる しあわせ共創都市 **安城**

これまでの取組状況

候補地の選定

調査・設計

関係者の同意

施工

施設の運用

水田貯留の方式としては、雨水を水路と隣接する多くの水田で同時に貯める「水路流量調整方式」と個々の水田で貯める「排水マス流量調整方式」があり、現場の地形、排水系統、耕作の状況などを調査した上で、現場条件に適した方式を検討します。また、水稻への被害が生じないように、**通常の湛水より余分に貯める最大水深は5 cm程度**として施設の設計を行います。



▲水路流量調整方式の外観



▲排水マス流量調整方式の外観



ともに育み、未来をつくる しあわせ共創都市 **安城**

これまでの取組状況

候補地の選定

調査・設計

関係者の同意

施工

施設の運用

水田貯留の候補地における地元町内会を始め、地権者・耕作者に対して水田貯留事業の内容を説明し、ご協力いただける方から同意書をご提出いただきます。近年では、**地域の主たる耕作者（営農）との強い協力関係を築き上げる**ことで、ものすごい勢いで事業区域が拡大してきています。



▲関係者に対する説明会の様子



ともに育み、未来をつくる しあわせ共創都市 **安城**

これまでの取組状況

候補地の選定

調査・設計

関係者の同意

施工

施設の運用

これまでに約113haで水田貯留施設を整備し、転作の影響を考慮した年間の最大貯留容量は約3万3千m³に上ります。なお、排水マス流量調整方式を採用した場所では、耕作者に田んぼダム装置の使用方を説明し、以後の管理をお願いしています。



▲耕作者に対する説明の様子

▼施工実績（令和5年度末時点）

竣工年度	流域	方式	整備面積(ha)
H22	堀内川	水路	4.08
H22	堀内川	水路	2.45
H24	志茂川	水路	4.00
H25	志茂川	水路	1.93
H28	西鹿乗川	水路	1.37
H28	西町雨水幹線	水路	1.69
H30	堀内川	排水マス	1.84
R1	堀内川・溝川	排水マス	5.07
R2	追田川	排水マス	9.86
R3	堀内川・追田川	排水マス	22.17
R4	堀内川・追田川・西鹿乗川	排水マス	24.30
R5	堀内川・松下用悪水路 西鹿乗川・大山田第一雨水幹線	排水マス	33.79
計			112.55



ともに育み、未来をつくる しあわせ共創都市 **安城**

これまでの取組状況

候補地の選定

調査・設計

関係者の同意

施工

施設の運用

水稻を耕作する時期は、市職員が調整マスのゲートを所定の高さまで閉めるとともに、耕作者が排水マスに田んぼダム装置を設置し、水田貯留を実施します。



▲水路流量調整方式による水田貯留の様子（左：平常時、右：大雨時）



ともに育み、未来をつくる しあわせ共創都市 **安城**

これまでの取組状況

候補地の選定

調査・設計

関係者の同意

施工

施設の運用

水田貯留の実施期間中は、地元町内会との協定に基づき、**毎月、市民が調整マスの清掃などを行い、施設の機能維持**に努めています。



▲市民による維持管理の様子



ともに育み、未来をつくる しあわせ共創都市 **安城**

これまでの取組状況

候補地の選定

調査・設計

関係者の同意

施工

施設の運用

転作する時期は、水を貯められないため、市職員が調整マスのゲートを全開にするとともに、耕作者が田んぼダム装置を排水管が見える程度の高さまで上げます。なお、**本市が採用する田んぼダム装置は、耕作者が持ち帰る手間を省くことができる**優れものであり、耕作者の意見を聴きながら、より簡単に操作できるよう構造の改良を重ねています。



▲転作時における施設の状況



ともに育み、未来をつくる しあわせ共創都市 **安城**